

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第2区分
 【発行日】平成21年5月28日(2009.5.28)

【公表番号】特表2006-521303(P2006-521303A)
 【公表日】平成18年9月21日(2006.9.21)
 【年通号数】公開・登録公報2006-037
 【出願番号】特願2006-504600(P2006-504600)
 【国際特許分類】

A 6 1 K 8/89 (2006.01)

A 6 1 Q 5/12 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 8/89

A 6 1 Q 5/12

【誤訳訂正書】

【提出日】平成21年4月13日(2009.4.13)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

i) 界面活性剤と連続水相中の分散炭化水素溶剤相を含み、ポリジオルガノシロキサン以外のシリコーン樹脂とポリジオルガノシロキサンを含むか、ポリジオルガノシロキサン以外のシリコーン樹脂とポリジオルガノシロキサンを縮合することにより得られる生成物を含むシリコーン感圧接着剤エマルジョンを調製するステップと、

i i) 前記シリコーン感圧接着剤エマルジョンをベース組成物に添加するステップと、を含むヘアトリートメント組成物の製造方法。

【請求項2】

前記シリコーン感圧接着剤エマルジョンの炭化水素溶剤が、イソドデカンである、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

ヘアトリートメント組成物が洗い流さないタイプの製品である、請求項1または2に記載の方法。

【請求項4】

ヘアトリートメント組成物がさらに、推進薬も含んでいる、請求項1から3のいずれかに記載の方法。

【請求項5】

前記推進薬が、炭化水素ガスである、請求項4に記載の方法。

【請求項6】

ヘアトリートメント組成物がさらに、ヘアコンディショニング剤も含んでいる、請求項1から5のいずれかに記載の方法。

【請求項7】

シリコーン感圧接着剤エマルジョンが、20から80重量%のシリコーン感圧接着剤を含む、請求項1から6のいずれかに記載の方法。

【請求項8】

毛髪と、請求項1から7のいずれかに記載の組成物とを接触させることを含む、ヘアスタイリング方法。

【請求項 9】

ベタつきをとまわずにヘアスタイリングを与えるための、請求項 1 から 7 のいずれか 1 項に記載のヘアトリートメント組成物の使用。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0017

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0017】

「シリコーン感圧接着剤」(PSA)という用語は、ポリジオルガノシロキサン以外のシリコーン樹脂およびポリジオルガノシロキサンを含んでいるか、ポリジオルガノシロキサン以外のシリコーン樹脂とポリジオルガノシロキサンを縮合することにより得られる生成物を含む感圧接着剤に関する。これらの「感圧接着剤」(PSA)材料は、室温で永久に粘着性があり、単に接触した時、または軽い圧力を加えることによって、表面へ測定可能な接着を作り出すことができる。一般に、これらは熱を必要としない。接着剤と付着物との間に化学反応は発生せず、接着剤の硬化も必要でなく、接着プロセスの間に溶剤が失われることも必要とされない。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0018

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0018】

本発明の状況において、次の2つの型のシリコーンPSAが存在する。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0019

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0019】

i) シリコーン感圧接着剤の1つの種類は、(i) シラノールエンドブロックポリジオルガノシロキサン流体、例えばポリジメチルシロキサンポリマー、および(ii) トリメチルシリルエンドブロックポリシリケート樹脂(例えばケイ素結合ヒドロキシル基を含有するベンゼン溶解性樹脂コポリマーからなり、およびこのコポリマー中に存在する各四官能性シロキシ単位に対して約0.6から0.9トリオルガノシロキシ単位の比において、式 $R_3SiO_{1/2}$ のトリオルガノシロキシ単位と、式 $SiO_{4/2}$ の四官能性シロキシ単位(式中、各Rは、1から6個の炭素原子の炭化水素基からなる群から独立して選択される一価の有機基である)とから本質的になるシリケート樹脂)の混合物からなる。Dexterらの米国特許第2,736,721号およびCurrieらの米国特許第2,814,601号は、このようなシリコーン感圧接着剤または同様なシリコーン感圧接着剤を教示している。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0020

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0020】

ii) シリコーンPSAの好ましい種類は、前記シリコーン流体と前記シリケートとを縮合することによって調製される。この好ましい縮合反応において、シリケート樹脂とシリコーン流体とは、触媒量のシラノール縮合触媒の存在下に互いに混合され、ついでシリ

ケート樹脂とシリコーン流体とは、例えば1から20時間、還流条件下の加熱によって縮合される。シラノール縮合触媒の例は、第一、第二、および第三アミン、これらのアミンのカルボン酸、および第四アンモニウム塩である。

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0021

【訂正方法】削除

【訂正の内容】

【誤訳訂正7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0022

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0022】

i) の場合、好ましいシリコーンPSAは、(a)少なくとも1つのシリコーンコポリマー樹脂40から70重量部、および(b)少なくとも1つのポリジオルガノシロキサン30から60重量部を含んでいる。ii) の場合、少なくとも1つのシリコーンコポリマー樹脂の好ましい量は40から70重量部、少なくとも1つのポリジオルガノシロキサンの好ましい量は30から60重量部である。シリコーン感圧接着剤組成物のシラノール含量は、(a)、(b)、または(a)と(b)との混合物の少なくとも一部分を、少なくとも1つの化学処理剤(c)で化学処理することによって低下される。この化学処理剤は、ケイ素結合ヒドロキシル基と反応して、この組成物のケイ素結合ヒドロキシル含量を低下させる。

【誤訳訂正8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0024

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0024】

シリコーン感圧接着剤 i) は通常、典型的には約1から4重量%のケイ素結合ヒドロキシル基の量でケイ素結合ヒドロキシル基を含有し、式 $R_3SiO_{1/2}$ のトリオルガノシロキシ単位および式 $SiO_{4/2}$ の四官能性シロキシ単位を、存在する各 $SiO_{4/2}$ 単位に対して0.6から0.9 $R_3Si_{1/2}$ 単位のモル比において含んでいる。2つまたはそれ以上のこのようなコポリマーのブレンドも用いることができる。ポリジオルガノシロキサン成分を、コポリマー樹脂と共重合させることを可能にするため、および/またはシリコーン感圧接着剤組成物を化学処理するために添加されているエンドブロッキング剤と反応させることを可能にするために、少なくとも数パーセント、好ましくは少なくとも0.5%のケイ素結合ヒドロキシル含量が存在すべきである。各Rは、独立して、1から6個の炭素原子を有する一価の炭化水素基、例えばメチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ヘキシル、シクロヘキシル、ビニル、アリル、プロペニル、およびフェニルを表わす。好ましくは、 $R_3SiO_{1/2}$ 単位は、 $Me_3SiO_{1/2}$ 単位であり、および/または $Me_2R_1SiO_{1/2}$ 単位 (式中、 R_1 は、ビニル (「Vi」) またはフェニル (「Ph」) 基である) である。より好ましくは、樹脂コポリマー (i) 中に存在する $R_3SiO_{1/2}$ 単位の10モルパーセント以下は、 $Me_2R_2SiO_{1/2}$ 単位であり、残りの単位は、 $Me_3SiO_{1/2}$ 単位 (式中、各 R_2 は、ビニル基である) である。最も好ましくは、 $R_3SiO_{1/2}$ 単位は、 $Me_3SiO_{1/2}$ 単位である。

【誤訳訂正9】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0025

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0025】

シリコーンPSA(i)の好ましい種類は通常、エンドブロッキングTRASiO_{1/2}単位(式中、各Rは、上の段落中に規定されているものと同じである)で終了しているARSiO単位を含む、1つまたはそれ以上のポリオルガノシロキサンを含んでいる。各A基は、例えばRまたは1から6個の炭素原子のハロ炭化水素基などの基、例えばクロロメチル、クロロプロピル、1-クロロ-2-メチルプロピル、3,3,3-トリフルオロプロピル、およびF₃C(CH₂)₅基から選択される。したがってポリオルガノシロキサンは、Me₂SiO単位、PhMeSiO単位、MeViSiO単位、Ph₂SiO単位、メチルエチルシロキシ単位、3,3,3-トリフルオロプロピル単位、および1-クロロ、2-メチルプロピル単位などを含有しうる。好ましくはARSiO単位は、R₂SiORR'SiO単位、Ph₂SiO単位、および両方の組み合わせからなる群から選択される(式中、RおよびR'は、上の段落におけるRと同じであり、ポリオルガノシロキサン(ii)中に存在するR'基の少なくとも50モルパーセントはメチル基であり、(ii)の各ポリオルガノシロキサン中に存在するARSiO単位の総モルの50モルパーセント以下がPh₂SiO単位である)。より好ましくは、各ポリオルガノシロキサン(ii)中に存在するARSiO単位のわずか10モルパーセントは、MeRSiO単位(式中、Rは上記と同じである)であり、各ポリオルガノシロキサン中に存在する残りのARSiO単位は、Me₂SiO単位である。最も好ましくは、ARSiO単位の実質的に全部が、Me₂SiO単位である。各T基は、R、OH、H、またはOR'基(式中、各R'は、1から4個の炭素原子のアルキル基、例えばメチル、エチル、n-プロピル、およびイソブチル基である)である。H、OH、およびOR'は、成分(iii)のエンドブロッキングトリオルガノシリル単位との反応のための部位を提供し、同様に、ポリオルガノシロキサン(ii)上のほかのこのような基との、または樹脂コポリマー(i)中に存在するケイ素結合ヒドロキシル基との縮合のための部位を提供する。ポリオルガノシロキサン(式中、TはOHである)の使用は、ポリオルガノシロキサン(ii)が、ついで樹脂コポリマー(i)と容易に共重合しうるので最も好ましい。適切な触媒、例えばクロロシランが用いられる時に発生されるHCl、またはオルガノシラザンが用いられる時に発生されるアンモニアがエンドブロッキング剤として用いられる時、この場合には、トリオルガノシロキシ(例えばR₃SiO_{1/2}、例えば(CH₃)₃SiO_{1/2}、またはCH₂CH(CH₃)₂SiO_{1/2})単位を末端基とするポリオルガノシロキサンを用いることができるが、この理由は、これらのトリオルガノシロキシ単位のいくつかは、縮合反応が加熱をともなって実施される時に切断されうるからである。この切断は、ケイ素結合ヒドロキシル基を暴露し、これはついで、コポリマー樹脂中のケイ素結合ヒドロキシル基と、またはエンドブロッキングトリオルガノシリル単位と、またはH、OH、またはOR'基、または切断反応によって暴露されたケイ素結合ヒドロキシル基を含有するほかのポリオルガノシロキサンと縮合しうる。異なる置換基を含有するポリオルガノシロキサンの混合物も用いることができる。

【誤訳訂正10】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0029

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0029】

このシリコーンPSAエマルジョンは、適切な有機溶剤中でシリコーンPSAを混合して分散相を生じることによって調製することができる。シリコーン感圧接着剤がシリコーン感圧接着剤エマルジョンの20から80重量%を構成するのが有利である。PSA/溶剤混合物は、1つまたはそれ以上の界面活性剤を用いて水中に乳化される。これらの好ましい界面活性剤は、アニオン性または非イオン性界面活性剤、特にアニオン性界面活性剤と非イオン性界面活性剤とのブレンドである。

【誤訳訂正 1 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 0 7

【訂正方法】削除

【訂正の内容】